

令和3年度 古河一高定時制 総合的な探究の時間報告書

実践概要

毎年2～4年を「Wordクラス」「Excelクラス」に希望で分け、7月と12月に集中講座を設けて実践している。クラスは翌年に入れ替え、3年目にどちらの知識も取り入れた研究の集大成をする。また、アドバイザーとしてビジネス系の専門学校から講師を招いている。

探究テーマ

WordやExcelを身近なものに役立てる研究

1 研究の目的

Wordは多くの公的機関や企業で利用されている文章作成ソフトである。社会では固より、家庭においても各種案内やグリーティングカードなども作れる。Excelは単純な計算は固より、かなり高度な計算もこなす表計算ソフトである。また、計算ばかりではなく文書も作成や表作成ができる。企業で用いている場合も多い。関数の書式が理解できれば、様々なことに応用ができる。本校では「簿記」の授業があるため、そこで培ったことを生かせる。これらの利点や社会との接点、生徒の身近で役に立つ研究ができると考え、「Word」と「Excel」のソフトに注目し、就職活動や社会生活、家庭生活など身近なことに焦点を絞り、生活の中にどのように生かすことができるかの研究を重ねる。

2 研究の方法及び計画

- (1) 7月…基本構造を学ぶ。または、基本操作を振り返る。(全体)
 - ア 専門学校の講師の指導の下、基本構造を理解する。
講義と実践を繰り返しながら知識を身に付ける。
 - イ 2年目の場合は、基本操作を確認しながら簡単な文書や表計算を行ってみる。
- (2) 8月～11月…日常生活を観察し、WordやExcelを使用する場面を考える。(個人)
 - ア 学校生活や家庭生活を観察し、WordやExcelを用いるとよい場면을列挙する。
 - イ 各教科での学びを生かした活用場面を考える。
 - ウ 行事の場面で、実際に利用し、実践とブラッシュアップを繰り返す。
- (3) 12月…基本操作を応用し、日常に役立つものを作成したり、提案したりする。(全体)

3 研究の結果

- (1) 基本構造を学ぶ。または、基本操作を振り返る。
 - ア タイピングスキルの向上を図りながら基本構造を学ぶ。
 - イ インタラクティブストーリーやゲーム、アニメーションが作れる「Scratch」を用い、ゲーム
を作成しながらパソコンやキーボードの様式、簡単なプログラミングを学ぶ。
 - ウ 関数の仕組みを学ぶ。
- (2) 日常生活を観察し、WordやExcelを使用する場面を





考える。

- ア 身近なことから課題を見つけ、それに対する解決方法を探る。
 - (ア) 効果的な文化祭の案内状やポスターを作成するための方法
 - (イ) 簿記の授業で利用できる決算書や出納帳の作成方法
 - (ウ) 自習で利用できる漢字テストやドリルの作成方法

- (3) 基本操作を応用し、日常に役立つものを作成したり、提案したりする。

- ア 効果的な文化祭の案内状やポスターを作成するための方法
 - (ア) 書式の設定を応用し、案内状や申込書、ポスターなどを作る。
 - (イ) イラストや写真の挿入やワードアートを使った文字加工を用

いる。

- (ウ) ゴミの分別の案内文などをわかりやすく提示する方法を考え作成する。

- イ 簿記の授業で利用できる決算書や出納帳の作成方法

- (ア) 四則演算の方法を用い、出納帳を作成する。

- (イ) 表作成を用い、決算書を作成する。

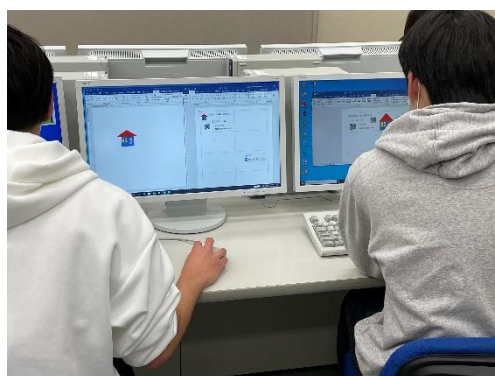
- ウ 自習で利用できる漢字テストの作成

- (ア) IF 関数を用い、漢字テストを作成する。

- (イ) Scratch を利用し、簡単なゲームを作成し学習に役立てる。



- オ 身近なものへの利用例を発表し合う。また、作品を評価し合ったり、試し合ったりする。



4 成果と課題

今年度のこれまでの活動や前年までの活動を振り返ると、WordやExcelの基本構造を身に付け、学校生活に利用することで、WordやExcelの利用価値に気づくことができ、翌年の活動への意欲になっている。また、作成したポスターや漢字テストを、実際に試し合い、評価し合うことで次に作成するものへのブラッシュアップをすることができている。さらに、就職活動や就労の場で、知識を活用することで自信につながっている。

活動には毎年、専門学校から講師を招き、講義やアドバイザーとして関わっていただいている。専門的なアドバイスをいただけることで、より実践的な力を身に付けられる。また、社会との接点をもったり、対人関係の構築の仕方を学んだりする副次的効果ともなっている。学問に打ち込む時間がなかなかとれない定時制の生徒にとっては、探究活動を継続して行うということが難しい場面も多い。また、モチベーションの維持や集中して課題解決に取り組むことも困難な場合もある。集中講座や集中探究活動は、モチベーションを保つことにつながっている。また、役に立つ活動の意識が、集中力の維持となっているといえる。

今後は、各教科とタイアップし、授業でのWordやExcelのより一層の利用や、社会生活に目を向けさせ利用できる場面を幅広く考えることで、身近で役に立つと生徒自身が思える探究活動を目指していきたい。